



吉本みづる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855

千葉市中央区市場町2番13号

電話 043 (227) 7411

アクアライン活用戦略の具体策求め

富津市特集 9月県議会一般質問



浅間山跡地利用を強く要望

平成11年4月の初当選以来、県議会議員活動10年の節目が過ぎた富津市選出の吉本充(よしもと・みづる)県議は、あの初当選の初心を忘れず、地元への支援者に対し、常に感謝の気持ちを示しながら、地域発展のために努力しています。昨年9月県議会でも一般質問に登壇し、東京湾アクアライン活用戦略による地域振興を訴え、浅間山砂利採取跡地への工業団地造成をあらためて提起しました。他にも、アクアライン800円化で厳しい経営に迫られている東京湾フェリーの航路存続を強く要望し、本会議場で森田知事に具体的な支援策を迫りました。

また、吉本県議が漁業者の声を聞き、かねて要望を続けてきた高温水時のノリの新品種開発に県が成功し、品種登録されたことが明らかになりました。吉本県議の富津漁港整備や林道整備要望など、他の質疑と合わせ4ページにわたり特集しました。

富津市は、森田知事の言うポテンシャルが高まっている地域です。こうした状況の中で、200ヘクタールを超える浅間山砂利採取跡地の積極的な活用により、地元経済の活性化や雇用の創出を図り、県南部地域振興の核とするため、一刻も早い跡地利用が望まれます。県は工業団地の凍結を解除し、早期に新たな工業団地を造成すべきと思うが、どうか。

吉本議員 東京湾アクアライン活用戦略と地域振興について伺います。アクア活用戦略の基本方針をみると、観光の振興はもとより、企業立地の促進が重要施策として掲げられています。しかしながら、県内で新たに工場を建設したくても用地がなく、他県に転出してしまおうという残念な事例も増えています。

森田知事 企業誘致や産業振興を進めていくためには、適正な工業用地の確保が必要ですが、工業団地の整備に当たっては、企業ニーズや事業採算性、

地元市町村の負担等を考慮することが大変重要であると考えています。現在、総合計画や行政改革計画等の策定過程において、県など公的主体による新規の工業団地整備のあり方について、検討を進めているところで

県「魅力高まる地域」

吉本議員 浅間山砂利採取跡地の利用について、現在どのような検討がなされているのか。

商工労働部長 浅間山跡地については、平成19年度に地元富津市を主体に、地権者の企業及び県が参加する「浅間山跡地利用懇談会」が設置され、早期有効活用に向けて検討を重ねているところで

吉本議員 東京湾アクアライン活用戦略の一つとして、浅間山跡地に工業団地を造るべきと思うがどうか。

商工労働部長 アクアライン通行料金の値下げや、圏央道整備の促進により、

浅間山跡地は、粗造成が終わっている土地であり、千葉県の将来を考えると、工業団地はやはり造っていかなければなりません。

大きな開発も海を埋め立ててはできませんし、自然環境へ与える負荷を小さくしなければなりません。浅間山砂利採取跡地は、200ヘクタールの広さもあります。

さきほどの答弁では、富津市とまず地権者がこのことについて、それが今まで何も進まなかった原因の一つでもあります。景気状況に際して、地元の富津市と企業ではなかなか意見がまとまらない。

千葉県が音頭をとって、県の将来発展の核になる工業団地が必要だということで、今後、ぜひ総合計画の中でも検討の材料にしたい。

市民の声を県政に届けます

県政や富津市のご相談、ご意見を聞かせてください

吉本 充 県議事務所

〒293-0006

富津市下飯野1114-2

TEL.0439-80-1885

東京湾フェリー

航路存続に県の支援策を!

船員の雇用対策求める請願も



自席から再質問する吉本県議

吉本議員 8月からのアクアラインの800円化により、交通量が大幅に増加し、南房総地域の観光施設の入込客の増加はもとより、県内の物流にも良い影響が出ているように、私の地元富津市でも、今後の波及効果に大きな期待を寄せているところです。

しかしながら、一方で、光が強くとると影も濃くなること、一部ではマイナスの影響が生じていることも見逃せません。東京湾フェリーは、昭和35年の開業以来、千葉・神奈川両県の活性化に貢献し、海のインフラとしての役割を果たしてきました。

一方、平成9年度のアクアライン開通から、その後の相次ぐ通行料金の値下げによって業績が悪化してきました。フェリー会社は、これまでに航路存続のための経営努力、コスト削減を実施してきましたが、企業努力だけではこの状況を打破することは非常に困難です。

全日本海員組合から県議会に長宛に「航路の存続と船員等従業員の雇用対策を求める請願書」も提出され、会

社からは知事宛に「航路存続のための支援に関する要望もされています。今定

例会には「久里浜・金谷航路存続のための支援を求める請願書」も提出されています。

東京湾アクアラインの料金引き下げに伴う東京湾フェリー株式会社への対応について、航路存続のために、県として何らかの支援策を検討すべきと思うがどうか。

森田知事 東京湾フェリーは、千葉県と神奈川県を結ぶ海上の公共交通機関であるとともに、南房総地域における貴重な観光資源の一つであると考えています。

県としても、今後の支援策について、地元市と連携しながら、幅広い視点から全庁的な検討を進めています。なお、フェリー会社自ら実施する「お月見クルーズ」などの企画を、県としても広報するのと同時に、現在展開している秋の観光キャンペーンでも会社と連携して船上コンサートを行うなど、観光資源としての活用を努めているところです。



金谷港のフェリー乗り場

3本の矢で支援策

吉本議員 8月、9月と観光シーズンを迎えても、フェリーの様子は芳しくありません。検討に時間がかかれば、会社の存続が危うくなりかねません。地元の富津市長、南房総の各市・町長も大変懸念を表明しています。スピードが命であるので、知事の政治的英断をもって支援策の検討に入っていただきたい。

森田知事 光が当たると影の部分が出るが、いかにその影の部分を薄めていくかが私たちの叡智だと思います。県だけではどうすることもできませんが、地元市とフェリー会社が3本の矢になって、しっかり考えていかなければならないと思っています。

同時に、全国的な問題であり、一義的には国がやるべきことではないかと思っています。また、全国知事会においても、フェリーの運航確保について、国へ要請を行ったところです。

県としても、これからも市、フェリー会社と意思疎通を図りながら、一生懸命検討させていただきます。



フェリー会社の船長から窮状を聞く吉本県議

浅間山砂利採取跡地

- ・館山自動車道 富津中央IC 東側の位置(道路脇)
- ・マザー牧場 西側 約4キロメートルの位置
- ・面積 約200ヘクタール(東京ドーム 46個分の面積)



浅間山砂利採取跡地

富津漁港の整備促進を要望

高水温のノリ新品種を開発



本会議場に登壇して質問する吉本県議

吉本議員 私の地元である富津漁港は、漁船漁業や貝類漁業及びノリ養殖が盛んに行われており、中でもノリは江戸時代から続く特産品です。漁港の整備状況は、これまでも航路の浚渫や防波堤整備などを進めていますが、船揚場などの確保が十分とはいえません。このため、水産物の陸揚げや出入港の準備等の作業に従事する地元漁業者からは早期の整備が求められています。今後、漁業者の高齢化への対策も含め、さらなる漁業の発展のためには、早急に富津漁港の整備を進めていく必要があると考えます。そこで、富津漁港の

整備の現状と今後の見通しはどうか伺います。

農林水産部長 富津漁港は、外洋波浪からの安全な入出港、漂砂による埋没対策及び係留施設等の不足の解消を図るため、平成14年3月に整備計画が国より承認されました。

これまでに、富津漁港の富津地区については、航路浚渫、臨港道路や物揚場の整備を、下洲地区については、船揚場の増設に先立ち、防波堤の整備などを実施して



漁業者から実情を聞く吉本県議

警察官を本来の治安業務に

いるところです。

富津漁港は、東京湾におけるノリ養殖漁業の中心的な役割を担う漁港であり、さらに地元から高齢者や女性にも使いやすい漁港が求められていることから、県としても早期完成に努めてまいりたいと考えています。

吉本議員 各警察署の留置施設、いわゆる留置場が過剰収容の状態であり、大変な負担になっていると聞いています。正直、私はこの話を現場の方から聞いて、大変驚きました。

一般的に逮捕された被疑者は、警察署に留置され、起訴されれば被告人として速やかに拘置所へ移送される訳ですが、実際には、本県では、移送待ちをしている被留置者の割合が高く、裁判に出廷するために行う護送についても、その多くが警察で行っているのが現状であると伺っています。

そこで伺います。拘留施設の現状とその課題はどうか。

県警本部長 現在、警察本部及び39警察署に男女43留置施設を整備しており、その収容定員は801人です。平成20年中の留置施設の収容率は、全国平均が約58%のところ、本県は約90

です。

被留置者が速やかに、国が設置すべき拘留所に収容されていれば、その公判のための護送は拘留所職員が実施することが本来であり、その分、警察官を本来業務の治安対策に充てることができます。言い換えれば、拘留所で行うべき業務を、警察官が肩代わりして行っていると言っても過言ではありません。

そこで、水産総合研究センターでは、平成17年度から高水温時の温度変化に強い品種開発に取り組み、「ちばの輝き」を開発しました。新品種の特徴は①秋の高水温停滞期でも成長が良い②%であり、全国一の過剰収容率となっています。

「ちばの輝き」を品種登録

そこで、水産総合研究センターでは、平成17年度から高水温時の温度変化に強い品種開発に取り組み、「ちばの輝き」を開発しました。新品種の特徴は①秋の高水温停滞期でも成長が良い②%であり、全国一の過剰収容率となっています。

国が拘留施設整備を

吉本議員 過剰収容等について、警察としてどのような対策を講じているのか。

県警本部長 過剰収容の原因として(1)留置施設の「収容能力」の問題(2)移送の停滞の問題が挙げられますが、「収容能力」については、警察署の新設等の際に、留置施設の増強整備を図っているところです。

「移送の停滞」については、今後も引き続き、千葉地方検察庁及び千葉刑務所に対し、移送促進の要望を行っ

てまいります。

県警本部長の答弁から、議員諸侯もこのような事実の認識を新たにしたと思いますので、今後、国に対して拘留所の設置を要望していきます。

県警では、県民の安全安心のため、なお一層のご尽力をお願いしたい。

このような過剰収容により、議員ご指摘のとおり、時として逮捕した被疑者を遠隔地の警察署に収容せざるを得ない場合もあり、そのために人をとられ、また、護送の間に事故の危険性も高まることとなります。

葉形が極めて細く、単位面積当たりの収量が多い③葉が薄く、なめらかで歯切れが良い製品になることです。すでに、県内生産者を対象に新品種の種苗を配布しており、試験的な養殖も行われています。新品種が普及することで、需要が多く、価格も有利な年内を中心に、ノリの生産量の拡大と安定供給に貢献するものと大いに期待されています。

この時期の水温が高く、統計的にも1度の上昇が確認されています。この影響で、しっかりと生育ができず、生産枚数の減少につながっています。

林道整備の重要性を強調

孤立集落をなくせ！

吉本議員 林道は、森林の適切な整備・保全を図るために必要不可欠な道路です。また、農山村地域の生活環境の整備や地域産業の振興にとって、重要な役割を果たしており、南房総地域においては、特に重要なものとなっています。

この南房総線の一つである林道金谷元名線や、富津市の管理する林道竹岡線の下

方にある富津市金谷の大沢集落で、台風のとくに市道が分断され、救急車が入れず、住民が命を落とすという重大な事故もありました。

この集落は、地すべり防止区域に指定されており、昨年、大雨で道が土砂で埋まり、NHKのニュースで取り上げられ、「13戸が孤立」と報道されました。

林道南房総線整備事業の進捗状況と今後の見通しはどうか。

農林水産部長 林道南房総線は、房総半島を横断する12路線からなる47キロの林道で、地元の意向を受けて昭和58年度から平成22年度までの計画で事業を実施

しております。平成20年度末の進捗率は、概ね76%となっています。

平成21年度は、鴨川市郷台線が完了する予定で、富津市保田見線ほか2路線が未着手となっています。

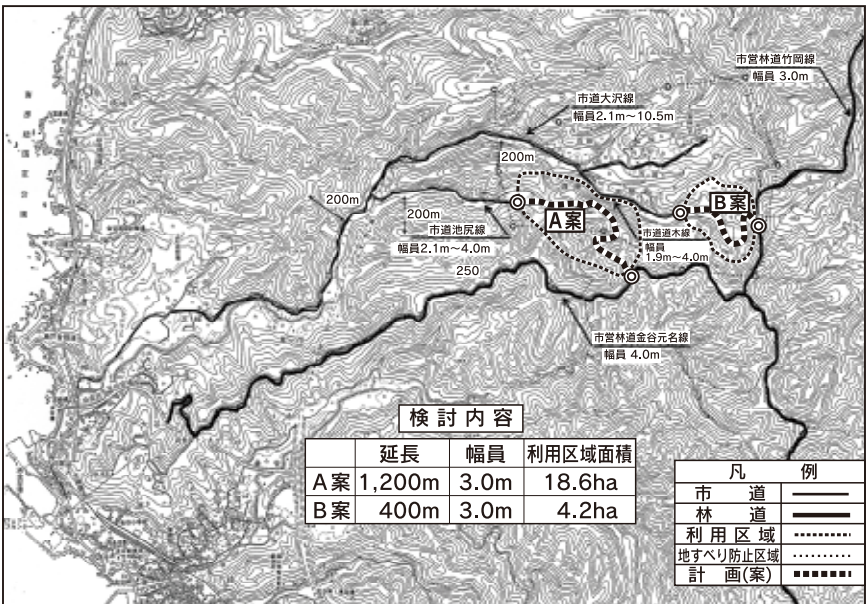
県としても支援策

吉本議員 大沢集落への新たなルートとして、林道

竹岡線と結ぶアクセスが必要だが、どのような整備手

凡	例
市道	——
林道	——
利用区域	
地すべり防止区域	
計画(案)	

検討内容	延長	幅員	利用区域面積
A案	1,200m	3.0m	18.6ha
B案	400m	3.0m	4.2ha



また、大沢集落がある地すべり防止区域金谷地区では、整備手法として地すべり関連事業による農道整備があります。当該地区は、平成15年度に地すべり対策事業が概成していることから、今後、新たに地すべりの兆候が認められた段階で、必要な要件を確認しながら、事業主体となる市と協議してまいります。

透析患者に障害者1級の認定を

吉本議員 大沢集落と林道竹岡線をつなぐ新たなルートを市が市道として整備する場合、千葉県として何らかの支援策はあるのか。

県土整備部長 富津市が市道として、国の交付金事業により整備するときは、県としても支援してまいります。

吉本議員 東

京都では、人工透析を受けていれば、必ず身体障害者手帳の1級となるそうですが、千葉県では人工透析だけではなく、血液の中の老廃物であるクレアチニンが一定以上の濃度でなければ、1級にならないと聞きました。人の命に関わる大切な問題ですので、伺います。

腎臓機能障害に対する身障者手帳の所持者数の推移はどうなっているのか。

健康福祉部長 腎臓機能障害で最も重い1級の身障者手帳所持者は、年々増加しています。具体的には、

要望

クレアチニンの濃度に関係なく、人工透析患者であれば東京都のように、腎臓機能障害1級と認定するよう求めること。

また、重度障害者に対する医療費の助成制度の充実、対象者の拡大などについて検討・改善していただくことを要望します。



がんセンターを視察する吉本県議

富津市
特集

9月県議会 一般質問

初心忘れず
皆さまに感謝

吉本みつる 県議

吉本 充県議プロフィール

略歴

- 昭和31年12月 富津市に生まれる
- 昭和54年3月 國學院大學卒業
- 昭和54年4月 富津市役所に奉職
- 平成8年4月 富津市議会議員に初当選
- 平成11年4月 千葉県議会議員に当選
- 平成15年4月 〃 再選
- 平成19年4月 〃 3選
- 警察企業常任委員長
- 文教常任委員長

現職

- 県議会 文教常任委員会委員
- 〃 土石採取対策審議会委員
- 自民党県連広報本部長、政調会文教部会員
- 富津市スポーツ少年団本部長
- 天羽剣志会代表
- 富津市文化協会会長